

鈴峯女短大食物栄養 森英子

目的 1. 調査の集計的の面から、平均的な国民の家計簿は果して典型的な国民の家計簿といえるであろうか。2. 調査報告は消費支出の動向を客観的に示すものであるが、社会的にみて、その現状は望ましい方向に向かっているのであろうか。と漠とした疑問を感じ、その不安の根拠を明らかにする。

方法 1. については、調査の品目分類改正の経緯と、最近の品目分類を考察する。2. については、「消費の記号化・差異化」傾向をT. ウェブレン, J. K. ガルブレイス, J. ボートリヤール, G. バタイユ等の著作を通じて考察する。また際立つた若年層の消費をコンサマトリー (consummatory) 概念から分析する。

結果 大きな課題であり、作業途上で最終結論は未だであるが、数
1. は多様化する国民の生活実態を調査報告という数値表で示すことは、たとえ業種の属性性別集計をふこなつても困難である。2. は時代と社会が位置する変化段階によつて、野蛮なプリミティブな形式と洗練された形式、破滅と慈善的単純さであるが、生産によつて蓄積されたエネルギーは横溢と沸騰のうちに消費されるのが歴史的必然である。が社会人道的な方向へ消尽されることが望ましい。

若年層のコンサマトリー傾向は、職業選択で3K回避に向かうのではなく、本来は目的のためのインストリュメント (道具) である労働のなかに、コンサマトリーを深化させることが理想である。